

## 第3分科会 キャンパスライフを支援する効果的な IT 活用法

### グループ別ディスカッション Aグループ

最初に、Aグループで討議するテーマを設定するために、各大学で運用しているシステムを紹介することとなった。

その結果、大学により差違はあるものの、ポータルシステム・出席管理システム・ICカードシステム・学生カルテ・E-learning と言ったシステムが導入されている、または導入を検討していると言った事がわかった。

その点を踏まえて、Aグループでの討議テーマの多数決を行い、参加者の興味が最も集まった「学生生活支援に役立つ学生ポータルサイトのあり方について」をテーマとして扱うことにした。

次に、ポータルシステムを既に導入している大学に、現在の運用状況や、それによりもたらされたメリット、運用上の問題点などを挙げてもらい、下記の様な状況であることが確認された。

#### 運用状況とそれによるメリット

##### ① 各種情報の配信を行っている。情報の内容は以下の通り。

- ・不特定多数の学生を対象としたお知らせ（システムエラーやガイダンスの情報など）
- ・休講・補講・教室変更など教務関連情報
- ・教職員向けの各種情報（人事発令など）

##### メリット

これらの情報は学生の履修登録情報などと連動しているため（すべての大学で実装されてはいない）、情報を受け取る側にとって必要なもののみが配信される仕組みとなっている。そのため、学生は無駄な情報を受け取ることが無くなり、情報の正確な伝達が期待できる。

##### ② 各種申請書や、ガイダンス資料のDLが可能

##### ③ 各種WEBシステムとの連動によるポータル（システムの窓口）としての役割

- ・出席管理・教室使用申請・シラバス閲覧・履修登録・成績確認・Webメール・図書館利用など  
（大学によって、導入しているシステム・していないシステムに差違がある）

##### メリット

ポータルとは本来「窓口」という意味もあり、ポータルシステムを中心とした、各種システムの統合を図ることで、学生はキャンパスライフに必要な情報の全てを一括して得ることが出来る。システムによって入り口が異なるといった煩わしさから解放され、ポータルシステムだけを確認すれば、全て補えるというメリットがある。

この運用状況確認の過程において、「ポータルシステム」とはいったいどのようなシステムで、どう

あるべきシステムなのかということが議論され、Aグループでは、ポータルシステムは「**学生に対して、その学生が必要とする情報のみを配信し、キャンパスライフを支援するツール**」と位置づけた。

補足すると、今までの紙媒体やWEBを利用した情報配信は、学生全体に対して一律に配信されていたため、学生はその多量な情報の中から必要な情報を自分自身で取捨選択すると言ったスタンスであったが、ポータルシステムは必要な情報のみを配信するので、学生は自身に必要な情報のみを知ることができ、そのことがひいては正確な情報伝達につながるという物であった。

つぎに、上記の運用状況に対して発生している問題点を挙げた。

## 問題点

### ① 利用率が低い

→ 利用する人・しない人で情報格差が発生する。

### ② 利用者教育が大変

→ 主に教職員の利用教育が大変。

### ③ 運用アウトラインの不整備の問題

→ ポータルを経由した学生対応にばらつきが発生する。

### ④ すべての情報をシステム上で配信することができない

→ 個人名が記載されるものや、頻繁な訂正が発生する可能性のあるものは、一度配信してしまうと訂正が難しいため

### ⑤ 情報の配信過多により、伝達率が悪化する。

→ 配信する情報が多すぎる、そしてその情報の見せ方が悪い（システムのレイアウトの問題）といったことが原因で、本当に有効な情報が埋もれてしまう懸念があることである。

### ⑥ システム間の整合性の問題

→ 各種システム（出席や履修登録など）とポータルシステム間での操作方法などの規格にばらつきがでる。

これらの問題点をどのように改善していくかの検討を行い、以下のようになった。

## 改善策

### ① の利用率に関しては次のような対策が挙げられた。

- ・ 利用者側がシステムを使いやすいように、インフラ環境を整備する（学内にポータルシステム専用PCの設置や、KIOSK風端末を置く）
- ・ 携帯電話はだれでも持っているツールなので、その携帯でできること（機能）を充実させる
- ・ 紙媒体の掲示を廃止し、ポータルでしか情報が取得できないようにすることで、否応なしに利用せざるを得ない状況をつくる。

### ②・③の利用者教育・運用のアウトライン設置に関しては次のような対策が挙げられた。

- ・ 運用に関しては、じっくり議論を練り、アウトラインを作成する。
- ・ 担当部署の設置による、作業の円滑化を図る（対応部署の切り分けなど）
- ・ 学生はもちろん教職員に対しても導入教育を行い、利用率の向上を目指す。  
（大学によっては、オリエンテーション時や情報系の講義時に操作教育を徹底して行っている所もある）

④・⑤・⑥の 情報の配信・伝達率の悪化・システム間の整合性の問題については次のような対策が挙げられた。

- ・ 情報の配信に関しては、運用によるカバー（情報送信手段の工夫）で対応。
- ・ システムのレイアウトや整合性の問題は、システムパッケージ上の問題になるので、システムのカスタマイズなどが出来るかどうかを担当業者とよくよく相談するしか方法が無い。
- ・ 情報過多については、あらゆる情報をポータルで送信するのではなく、果たしてその情報が本当に必要な物なのか、しっかり精査するように心がける必要がある。

さらに、今後ポータルシステムなどにおいて、どのような機能が付加されれば、更に利便性が高まるのであろうかと言う議論がなされ、導入コストや実現の可能性を一度無視してポータルシステムの可能性を議論し、その結果、次のようなシステム改善案が挙げられた。

#### ○施設利用申請のシステム

施設利用の効率化を図りたい。← 関東学院大学様で導入事例があり、システムを見せていただいた。学生・教務課で承認することで正式に利用可能になる。（承認メールが送られる。また、却下の場合もメッセージが送られる。） 休講登録するとその教室が利用可能になる。

#### ○ポータルサイトのカスタマイズ機能が欲しい

色やレイアウト、スキンなどを自由に変更し、自分だけの画面にカスタマイズすることによって、ポータルサイトに愛着を持って貰う。（事例研究のポートフォリオの件と同じで、自分専用ページにすることで、利用率が高まるのではないかという意見）

#### ○各種一般情報の配信。

ニュースや天気予報などと言った、大学生活以外の日常必要とする情報を確認できるようにすることで、一層の利用率上昇がはかれるのではないだろうかという意見。

○出席管理システムとの連動により、退学予備軍の早期発見・対応などにつなげる。

○別々のシステム間でのインターフェース（操作性）の統一を図りたい。

○教員が講義資料を投稿し、学生はそれをDLして予習ができるようにしたい。

○ポータルを利用した小テストの実施

○卒業生にも利用できるシステム（在学時に作った資料を残して利用する）があるとよい。

最後にまとめとして、ポータルシステムの意義について、再度問題提起があった。

ポータルシステムに限らず、各種 ICT システムは非常に便利になり過ぎており、何でもできてしまうほどではあるが、システム化を促進しすぎるあまり、学生と大学のとのつながりが薄れてしまうのではないかという懸念が挙げられた。

大学の使命としては、学生に対して、「教育」を行うと言う側面があるため、全てをシステム化してしまい、上記にあげたような、学生とのつながりがなくなることにより、本来の目的である「教育」的側面が果たせなくなるのではないかということが懸念された。

この問題は非常に難しく、全大学での1つの明確な答えを定義することはまず不可能と考え、各大学がこの問題を持ち帰り、運用ポリシーをしっかりと定義し、便利すぎるシステムが逆効果にならないようシステム運用することを心がけようということで、A グループのディスカッションを終了した。

## I. はじめに

「キャンパスライフを支援する効果的な I T 活用法」というテーマから、まずは下記について意見交換を行った。

- 各大学の ITC 導入実績や現状について（導入している機能等含む）
- ポータルサイトの定義とは？
  - 『ログインした個人が必要な情報のみ入手できるツール』
  - 大学と学生をつなぐ個々の窓口機能が集結したもので、「必要な情報のみ」という部分がポイント。
- ポータルサイト導入大学の問題点や課題、対応策について（未導入大学から導入大学への質問等含む）
  - ・ 学生や教員の利用率をあげるためにはどうしたらよいか。
  - ・ ポータルを導入しても、紙ベースでの掲示も廃止できない。（廃止している大学もある）
  - ・ 情報を携帯電話に転送し、そのメールだけを頼りにする学生が増える。（自分で情報を取りにこない）
  - ・ サーバの負荷を軽くするために、履修登録の締切日を分散するなどの工夫が必要。
  - ・ システム導入だけではなく、それを利用するハード面の整備も必要。（例えば、携帯での情報入手を可能にする、履修登録期間のみ PC を増設する等）
  - ・ ID やパスワードを忘れる学生への対応をどうするか。

## II. 理想的なポータルサイトとは？

I での討議を踏まえると、各大学でポータルサイト導入、未導入の違いがあり、規模（予算）も異なってくることが判明した。そこで、参加者全員が仮想大学の作業部会メンバーになった想定で、在学生を対象とした「低コストで高利用、満足度の高いポータルサイト」を検討することにした。下記の①～⑤について、討議を重ねた。

☆ 学生に対して、どのようなことを意識、期待してポータルサイトを構築するか

### キーワード

「自発的行動、学習習慣の構築、自立支援、利便性、学生と大学の触媒機能」

#### ① 機能

ポータルサイトに搭載できる機能は様々であるが、低コストということで、全てを搭載することはせず、必要最低限の機能とする。

また、全ての機能を最初から付加するのではなく、3段階に分けてリリースする。学生の利便性を考慮して、できる限り携帯電話でも情報入手を可能としたい。

《第1段階》 ～ポータルサイトの基本的な部分から導入 お知らせ機能、休講・補講、時間割、試験関係、呼び出し機能、 WEB履修機能（PCのみ）
《第2段階》 成績参照、カリキュラム要項、Q&A（FAQ含む）、就職関係、 住所変更などの届け出（PCのみ）
《第3段階》 出席管理照会

#### ② 運用体制

- ・運用ルールが確定してからリリースする。
- ・ポータルサイト全体を統括・管理する部署が必要（2～3名）。
- ・全学体制で実施することが重要なので、最終的な責任の所在は学長や事務局長レベルにおく。

#### ③ 教職員へのアプローチ

- ・理解を深めてもらうためには、ポータルサイト導入における確固たる目的や理念があることが大前提。
- ・定期的に検証し、組織的フィードバック。随時改善していく体制が必要。

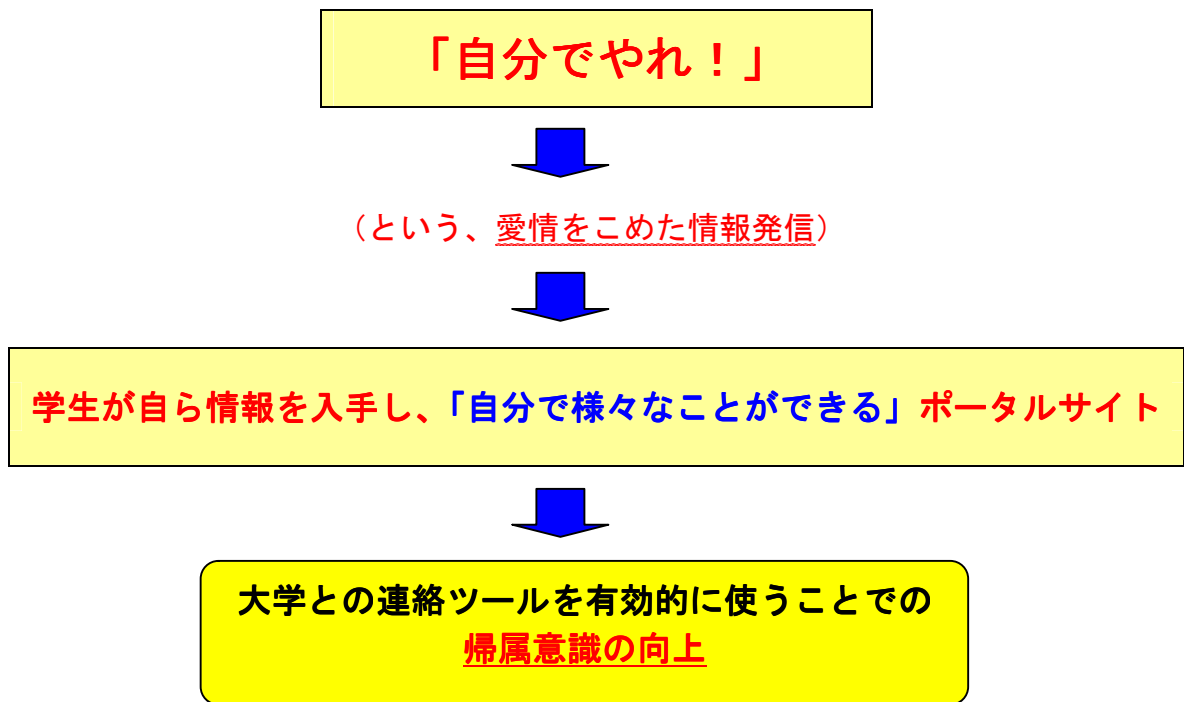
#### ④ 利用度向上のための工夫

- ・学内メールをポータルサイトに取り込む。（まずはログインしてもらうように！）
- ・学生が楽しめる仕掛けを意識する。（例えば、デザインを自分で選べるようにして、学生が「自分のページ」という意識を持てるようにするなど）
- ・ペーパーの廃止（強制的に、ポータルサイトを使わないと学生生活が成り立たないようにする）

⑤ ①～④を踏まえた上での『仕掛け』

(ここに建学の精神や理念にのっつた、各大学の特色がでてくる)

- ・ SNS
- ・ ポートフォリオ (4年間の継続的な指導履歴)
- ・ e-learning システム etc...



### Ⅲ. 最後に

理想的なポータルサイトを導入しても、最終的にはそれを運用する教職員の資質が問われる。学生にとって、使いやすくわかりやすいシステム構築を目指し、それをサポートする教職員が情熱をもって親身に対応することが重要であると考える。